



県下医療系大学紹介

熊本大学 薬学部

薬学部長 大塚 雅巳

熊本大学薬学部の歴史は二五〇年以上前の宝暦年間に作られた「蕃滋園」という肥後藩の薬園に遡ることができます。蕃滋園の薬用植物は現在も薬用植物園に受け継がれております。明治十八年に熊本薬学校が設立され、昭和二十四年に熊本大学が設置されたときに薬学部となりました。それ以降、研究室の増設、大学院の設置、大学院医学薬学研究部（現在の生命科学研究所）への改組、薬学部附属創薬研究センター・育葉フロンティアセンター・薬用資源エコフロンティアセンターの設置、更には実験研究棟、大江総合研究棟、宮本記念館の建設と、名実ともに国内でも最大規模の薬学部へと発展してきました。

平成十八年に薬学教育に六年制が導入されました。これに対応し、熊本大学薬学部では六年制の薬学科と四年制の創薬・生命薬科学科とを設置し、独自の教育と研究に取り組んでおります。

薬学科では、高度化する医療において薬物治療の指導者となる薬剤師、疾病の予防および治療に貢献する臨床研究者として活躍する人材の育成を目指しています。自ら考え問題を解決できる高度な薬剤師を養成するため、熊本大学医学部附属病院のご協力のもとに各診療科で医学部生とともに行うポリクリ実習を導入するなど、独自の取り組みを行っております。創薬・生命薬科学科では、創薬科学や生命科学分野の先端的研究者、医薬品などの開発・生産・管理の場で先導的役割を担う研究者、技術者および医薬品情報担当者等として活躍する人材の育成を目指しています。独創的な発想力、探求心、創薬マインドを育み、世界をリードする研究者を養成するために、三年次の四月から研究室配属を行い、充実した卒業研究を行うようにしています。

平成二十四年三月には薬学科、創薬・生命薬科学科に接続する大学院博士課程および大学院博士後期課程が開設されるはこびです。

これまで大学院ではDDSスペシャリスト養成プログラム（平成十

七十八年度）、創薬研究者養成プログラム（平成十九〜二十一年度）、学部ではエコファーマを担う薬学人養成プログラム（平成二十〜二十二年度）の三つの文部科学省教育GPに採択されています。また熊本大学では研究拠点の形成に力をいれていますが、薬学部では「熊本大学発の画期的な新薬創製研究拠点の形成」、「個別化医療をリードする育葉フロンティアセンター研究拠点形成」の二つの研究拠点が採択されています。大型研究費を獲得し、活発に研究活動を展開している教員を多く擁しております。

熊本大学薬学部では医療界、製薬業界に多くの人材を輩出してまいりました。臨床現場でよく用いられているアリセプト、ガスター、ブロプレスといった医薬品は熊大薬学部出身者が中心的役割を担って開発されたものであります。

熊本大学薬学部では昨年、薬学部創立一二五周年を迎

え、記念式典、記念事業が盛大に行われましたが、研究教育にさらに邁進するようにと、各方面からのお励ましをいただきました。今、熊本大学薬学部は、新たな一歩を踏み出すうとしております。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



熊本大学 薬学部